広告

保育系弁護士がゆく

少子化時代をサバイブする園の護身術

第11号

園での虐待･不適切保育が起こる背景

レーヴ法律事務所では、全国の園の顧問弁護士として園・先生方のトラブル・悩みごとに対応しています。
事務所に寄せられる様々なご相談を基に、園に役立つ情報をQ&A形式でお届けします。

レーヴ法律事務所共同代表
園を護る顧問弁護士として、全国の園をサポートしながら、各地で研修・講演活動や園向けの著作活動を行っている
株式会社チャイルド社・
株式会社幼保経営サービス
取締役副社長

弁護士　保育士
おもちゃコンサルタント
柴田 洋平

Question

なんでこんな世の中になってしまったの？

2022年12月以降、各地の園での虐待･不適切保育の発覚のニュースが後を絶ちません。どのような事情が原因にあるのでしょうか？
保育現場ではどのようなことを考えて保育に向かうべきなのでしょうか？

虐待・不適切保育の原因は？

Answer

① 急激な保育施設の増加と長期の少子化による慢性的な人手不足、
② 昔から変わらない配置基準と一方での業務の増大、を原因とする業界全体の高ストレスが一番の原因と考えます。この問題や原因に真正面から向き合い園内で話題としコミュニケーションを取ることが今できる方策でしょう。

もっとも大きな要因は、保育現場が以前より、高ストレス、高負荷がかかる環境になったことでしょう。待機児童対策で保育施設は急増しました。当然、多くの保育者が必要になります。

他方、長期の少子化･人口減少の波は既に勤労をする世代にも影響が出ています。ざっくりとした数字として今、0歳の子は80万人、20歳位の方は100万人、40歳位の方は120万人、60歳位の方は160万人います。相対的に20～60歳の働き盛りの人間は減っています。少なくなる中で、保育者になってもらおうと補助金の増額や処遇改善の処施策で、保育者の処遇は改善し、成り手を増やそうとしていますが、それでも需要の増加には追い付きません。

社会の変化とともに、保育施設がより多くの運営費を貰うようになった反面、その事務･手続は複雑・多岐にわたるようになりました。園の職員は同じでもやるべき業務は増えています。

後半につづく▶

広告

業務の増大…高ストレス！

現在根深い社会問題となっている「児童虐待」。本書では、虐待の定義を明確化し、園における保護者支援としての対応と、園内研修を通した職員のスキルアップ、そして園内での虐待についても解説しています。

■ISBN: 978-4-925258-42-5
■企画：柴田豊幸/ 編著：柴田洋平
板垣義一/ 監修：金子恵美
■判型：AB 判
■頁数：124

詳細はこちらから▶

Answer（後半）

更に追い打ちをかけたのが、コロナ禍の感染対策などです。厚労省は、既存の運営費の補償を早々にしたり、様々なコロナ関連の補助金も支給されましたが、現場の先生方に予想外に上から覆いかぶさってきたことは言うまでもありません。

虐待に限らず、いじめ・ハラスメントなどの人間関係の摩擦は、人間の心身が高負荷・不安定な状況にあればあるほど、弱者に矛先が向かって起こるものです。残念ながら、そのような保育環境が一朝一夕に代わることはありません（異次元の政策が実現でもされない限り）。

一つ一つの園・一人一人の保育者がそのようなリスクを自覚し、自分は勿論、周りにいる保育者がそうならないような環境を作るか、考えていく必要があります。

園の運営者はより良い職場づくり・処遇のための人事労務の施策を考えなければなりません。そして現場の先生方も、園の中で、保育者の虐待・不適切保育をしっかりと話題とし、起きていないことを確認し、起こさないための情報共有を行いましょう。

様々な園から相談を受ける弁護士の立場からは、その一つの要因に、園の保護者に対する過剰なサービスや気遣いがあるように感じます。

レーヴ法律事務所

園の困りごと、何でもお問合せください　～園の顧問弁護士～　レーヴ法律事務所

［東京弁護士会所属］
■弁護士／保育士　柴田 洋平　■弁護士　板垣 義一　■弁護士　今西 淳浩
TEL：03-5336-3390　Email：reve.info@reve-law.jp
ＨＰ：https://www.reve-law.jp/